木質文化財研究会

この度、木材学会に新規研究会として、あらたに木質文化財研究会が設置されました。設立に向けて発起人として賛同して下さった会員の方々をはじめ、理事会で承認下さった関係者の皆様にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

わが国には、世界最古の木造建築物をはじめ、伝世された仏像、工芸品、紙・文書や遺跡より出土した有機遺物など、世界有数の木質文化財が存在しており、そして、様々な学問領域の多くの研究者をはじめ、専門技術者や伝統的職能集団など多層的な人々が、文化財の保存修復や調査研究に携わってきた歴史があります。それらの系譜を絶やすことなく、より豊かに継承し、今後より一層必要とされるであろう国内外の木質文化財の調査保存における課題に対して適切に対応するために、互いの情報を集約する必要があると考えています。これまでにも、研究者個々のつながりや研究機関のネットワークにおいて様々な調査研究が行われてきましたが、木材学会内においても会員相互が連携することによって、お互いの研究活動をより発展させ、得られた研究成果を迅速に文化財現場へフィードバックできるのではないでしょうか。

潜在的なニーズもあったことでしょう。木質文化財研究会の新規設立への呼びかけには 50 人を超える方々の賛同を得ることができました。呼びかけに応じて下さった会員間で、メールによる研究会名称の最終決定および代表幹事の選出を行いました。その結果、初回代表幹事は、木質科学研究者として、文化財保存の現場、国内外の第一線でご活躍中の高妻洋成会員に初代研究会代表幹事にご就任頂けることになりました。6 月 25 日の木材学会理事会において、新規研究会として承認を受けることができました。

発足後は、8 月 6 日に京都大学生存圏研究所木質ホールにおいて発起人初会合を行い、さらに 9 月 20 日には第一回見学会として、代表幹事・高妻洋成会員の所属機関である奈良文化財研究所を訪問するなどの活動をスタートさせています。今後も、木質科学研究者と、博物館や文化財研究機関、文化財保存修理に携わる方々との連携を基に共同研究などを行い、シンポジウムの開催や、文化財修理現場の見学会などを、定期的に企画し、種々の研鑽の機会を積極的に作っていきたいと考えています。間もなく、木質文化財研究会 HP も木材学会 HP からアクセスできるようになります。現状では、事務局でメーリングリスト等の管理を行っておりますので、入会をご希望される方や、ご意見などは事務局までご連絡を頂ければ幸いです。

歩き始めたばかりの研究会ですが、会員皆様の温かいご指導とご協力を頂きながら、確かな道のりを進んでゆきたいと思っております。どうぞ末永く宜しくお願い致します。

木質文化財研究会　事務局担当
横山　操：myokoyama@rish.kyoto-u.ac.jp（日本学術振興会特別研究員）